



No. 67  
2022 Winter

山松舎  
臨南寺

特集

けいざんぜんじ  
瑩山禅師ものがたり ⑫



『伝光録』の提唱に取り組まれ  
修行僧に精進するよう励まされました

三十五歳になられた瑩山さまは、義介さまの後を継いで、大乘寺の二代目住職に就任されました。

住職に就かれる前、義介さまの代理をお務めになられるようになった瑩山さまは、大乘寺に集う修行僧たちに自分の思いを語りかける「提唱」に力を入れられるようになりました。それを側近の侍者たちが書き留めてまとめられたものが、『伝光録』として遺されたのです。

お釈迦さまから懐契さままで

『伝光録』——「光を伝える」となっ

ています。光とは何でしょうか？

『伝光録』に最初に登場するのはお釈迦さまです。お釈迦さまは、十九歳で出家しさまさまな苦行に取り組まれるも効果なく、三十歳になられた十月八日、菩提樹の下で坐禅を組まれます。その明け方、東の空に出現した明けの明星を見て、悟りを開かれたのです。その教えを受け継いで第二祖となられたのが摩訶迦葉さまです。

『伝光録』では、お釈迦さまから始まり、第一祖・摩訶迦葉さまから第二十八祖・達磨さままでインドの祖師の略伝と悟りの経緯が語られます。次いで、

達磨さまがインドから中国へ渡られ、中国へ仏法が伝えられます。二十九祖・大祖さまから五十祖・如浄さままで中国の祖師の略伝と悟りの経緯が綴られます。

そして、道元さまが中国にお渡りになり、如浄さまのもとで「心身脱落」の悟りを得られ、やがて日本に帰って永平寺を開かれます。五十一祖・道元さまと五十二祖・懐契さまの悟りの経緯が語られます。

『伝光録』では、お釈迦さまの光が懐契さままで受け継がれていく様子が綴られ、さらにそれぞれの悟りについて、瑩山さまの思いと修行僧への激励の言葉が述べられています。

瑩山さまの願い

「祖師たちが身を削り心を削つてようやく到達した悟りを、徹底して学んでほしい」

「祖師たちの手にした悟りを、自分の

ものにしてもらいたい」

「諸君が悟りを得るまで、身を捨てるつもりで、努力してほしい」

「心を尽くして修行し精進して、仏道の神髄を極めてもらいたい」

仏法は、師から弟子に伝えられます。しかし、その神髄を師が弟子に授けられるかと言えば、それほど単純ではありません。瑩山さまが「平常心これ道」で悟りを開かれたように、何よりも弟子が体得しなければ始まりません。師は、弟子が悟りを得られるように導くだけ。そのことを瑩山さまは『伝光録』の提唱で修行僧たちに伝えようとしたのです。

瑩山さまの願いは着実に実を結び、多くのすぐれた弟子が育っていきましたが、そのお話は次回といたしましう。



瑩山さまの提唱をまとめた『伝光録』(永光寺蔵)

初弁天朝から雪がちらつくや 田中次郎

# 弁財天祈禱会で厄を払い、 福をお授かりになりませんか



弁財天様は七福神の一人。破魔矢をお授けいたします。音楽の才能を育て、雄弁と智慧を授けられ、芸能や学問で成功に導くだけでなく、金運や財運をもたらすと伝えられています。

新しい年が穏やかでありますよう、また世界中に戦争や感染症が広がらぬよう、心を込めてお祈りいたしましょう。

弁財天祈禱会では、『大般若波羅蜜多經』六百巻を転読いたします。この経典は、唐代の高僧玄奘三蔵がインドから中国へ持ち帰ったもの。大きな霊力を持つと言われております。

皆様の無病息災・家門隆盛・家内安全を願って、お札、お守り、



皆様の無病息災と家内安全をご祈念いたします

## 寺南景 百景

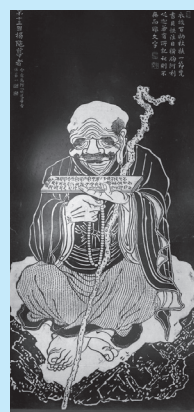


### 十六羅漢さま 第四回

臨南寺の羅漢さまは、ご本尊さまをおまつりしている内陣の左右に、八人ずつ分かれていらっしゃいます。合掌されていたり、巻物を持っておられたり、一人ひとり違った特徴があります。本堂にお参りされた時はぜひそのお姿に触れてみてください。

羅漢さまは「修行を完成した人」「悟りをひらいた高僧」のこと。お釈迦さまのお弟子さんのうち、特に優れた十六人の弟子を十六羅漢といいますが、羅漢さまは、涅槃に入る間際のお釈迦さまから「永くこの世にとどまり、仏法を護持して多くの人を救済せよ」といわれ、各地で仏法を守り伝えました。第四回になりました。最後の四人をご紹介します。

第十三 因掲陀尊者  
千三百人のお弟子を持ち、廣脇山に住んでいると言われております。



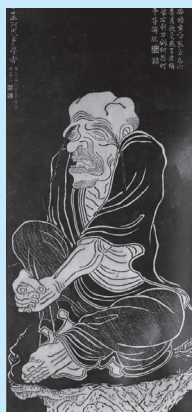
インガダ

第十四 伐那婆斯尊者  
千四百人のお弟子がいて、ヒマラヤ山脈の南にある小ヒマラヤ山脈の可住山に住んでいると伝えられています。



バナバス

第十五 阿氏多尊者  
千五百人のお弟子を持ち、鷲峯山に住んでいると言われます。一部の経典では弥勒菩薩と呼ばれることもあります。



アジタ

第十六 注荼半託迦尊者  
千六百人のお弟子がおり、須弥山の隣軸山に住んでいると伝えられています。第十羅漢の半託迦尊者の弟です。



チュダハンタカ



# 「我逢人——我、人と逢うなり」

本年も、感染症の拡大状況に  
右往左往し、あつと言う間に年  
末を迎えてしまいました。お寺  
の行事も本来の形では行えず、  
ご不便をお掛けしております。



臨南寺 住職  
大澤正道

昨年九月に御遷化された、大  
本山總持寺の故江川辰三禪師  
様の荼毘式禮が本年九月十四  
日に謹修され、参列・焼香させて  
いただきました。お元気で貫首  
をお勤めの時は何度も御巡錫  
賜り、温かいお言葉を頂戴いた  
しました。

前賜りましたご法愛に感謝申  
し上げ、心よりご冥福をお祈り  
いたします。

また、十月十一日には、昨又大  
本山總持寺の新貫首に就任さ  
れた石附周行禪師様の晋山式  
禮が謹修され、ご縁あってお手  
伝いさせていただきました。今後、

益々の御法躰長養を御祈念申  
し上げます。

禪師様は、「我逢人（我、人と  
逢うなり）」という言葉を大切  
にされておりました。私も、人  
と人との出会いを大切に、精進  
して行きたいと思えます。ご生

年末の気ぜわしい時期ですが、  
感染症に気をつけながら、新年  
をお迎えいただきたいと思えます。

## 臨南寺行持予定（一～二月）

一月

### 弁財天祈祷会（本堂）

一月十五日 午前十時～十時半

新年を迎えて最初の年頭法要です。新しい年がよい年にな  
りますよう、皆様の厄を払い福を招く法要を修行いたします。

二月

### 釈尊涅槃会（本堂）

二月十五日

お釈迦様の御命日に、涅槃に入られるお釈迦様のお姿を描い  
た涅槃図を飾り、供養と感謝の法要を行います。



\*なお、新型コロナウイルスの感染状況によっては、中止することや  
変更する場合がございます。臨南寺の行持については、臨南寺の  
ホームページでご確認いただくか、電話でお問い合わせください。  
寺務所の電話 ○六・六六九八・一〇〇一（九時～十七時）

年末年始の臨南寺

\*十二月三十一日～一月三日は、寺務所を閉めさせていただきます。

\*三が日の花の販売はございません。

\*開門は午前五時、閉門は午後九時となっております。

早朝坐禅会、写経会とも  
しばらくお休みさせていただきます。  
ご了承ください。

## 秋のマトリ合同法要

### 読経が続く中で

### ご焼香していただきました

あいにくの雨模様でしたが、十二月十三日(日)午後二時から、がっしょう園マトリの合同法要が営まれました。感染症対策を取った上で、マトリにご納骨された皆様の法要が執り行われました。「マトリ」とはサンスクリット語で「母」のこと。母のふところに抱かれるような安らぎが得られますようにと祈る思いが込められています。



読経が続くマトリの中でご焼香していただきました

## 休憩所が 新しくなりました

十二月三十一日までは、墓花の販売を休憩所で行っています。どうぞご利用ください。

階段の横にスロープを設置していますので、車椅子の方もご利用いただけます。



## 工事のため駐車スペースが 狭くなっています

臨南寺会館(紫雲殿)の建て替え工事のため、駐車スペースが少なくなっています。年末年始のご参拝の際は、ご不便をおかけいたしますが、なにとぞご理解とご協力のほどよろしくお願い申し上げます。



この歩道は歩行者だけでなく自転車もご利用ください

### 編集後記

先日、初めて受けた内視鏡検査で大腸がんが見つかり、手術と2週間の入院を余儀なくされました。病院に通うこともなく薬もまったく飲んでいなかった私にとって、青天の霹靂とはこのこと。健診の大切さと、それに見向きもしなかった自分を恥じております。(M)

### 墓参のゴミはコンテナに

年末年始の墓参で出たゴミは、コンテナに入れてください。  
ご家庭で出た「ゴミ」などはご遠慮ください。  
墓苑を美しく清潔に保っていただきますようご協力をお願いします。

「ほ〜っと」67号

令和4年12月

編集・発行：りょうがりん 椋伽林「ほ〜っと」  
編集室

〒546-0034 大阪市東住吉区長居公園1-32

TEL 06-6698-1001

FAX 06-6697-3330

Eメール：rinnanji@abeam.ocn.ne.jp

ホームページ：http://www.rinnanji.com